

責任ある開発に期待する
～中国エネルギー消費世界一の記事に接して～

平成 22 年 7 月 23 日
社団法人 日本原子力産業協会
理事長 服部 拓也

国際エネルギー機関（IEA）は 7 月 20 日、中国の 2009 年のエネルギー使用量が石油換算で 22 億トン超に達し、米国を抜いて世界首位になったと発表した。

中国は早晩世界最大のエネルギー消費国になるものと予想されていたが、今般の金融危機の影響が米国と比較して小さかったため、その時期が早まったものと評価されている。

中国のエネルギー使用量の伸びは急激で、今回の統計では 2000 年と比較して 2 倍にまで増加しているが、人口一人あたりの使用量は OECD 諸国の平均の 3 分の 1 に過ぎないことから、13 億人もの人口を有する中国では、エネルギー効率が低いことも相俟って、今後更に使用量が増加すると見込まれている。

中国ではエネルギー供給の七割を石炭が占め、温室効果ガスの排出量については、既に 07 年に米国を抜いて世界最大の排出国となっており、今後の世界のエネルギーと地球環境問題を考える上で、中国の動向が一段と大きな影響を与えることとなった。

このような状況を踏まえ、中国に対しては地球環境に対する影響を考慮して、温室効果ガスの排出量の削減に責任を持って取り組むことを第一に、責任あるエネルギー・環境政策に取り組むことを期待したい。

その柱の一つは、言うまでもなく原子力発電の開発であろう。エネルギーと環境問題の同時解決の切り札と期待されている原子力発電については、中国では、現在 11 基 910 万 kW が運転中、28 基 3130 万 kW が建設中と、既に我々の常識を超えるような規模とスケジュールで開発が進められているところである。であるからこそ、この原子力発電の安全確保はいささかもゆるがせにはならない。中国には、情報の公開による透明性の確保とともに、安全文化の徹底による安全確保を最優先に取り組むことを強く望みたい。

幸い、当協会は、昨年 11 月に中国核能行業協会との間で安全確保や人材育成を中心に情報交換や相互交流を進めていくことを目的とした協力協定を締結したところである。今後このチャンネルを通じて、我が国が長年にわたり蓄積してきた安全技術分野においても可能な限り協力し、中国の原子力開発の健全な発展について貢献していきたい。

以上